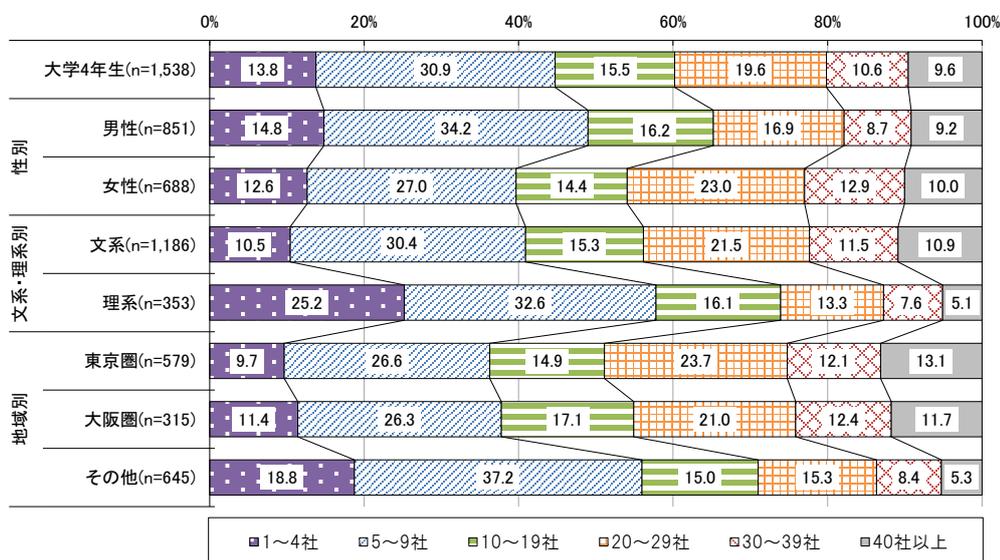


⑥ エントリーシートの提出数

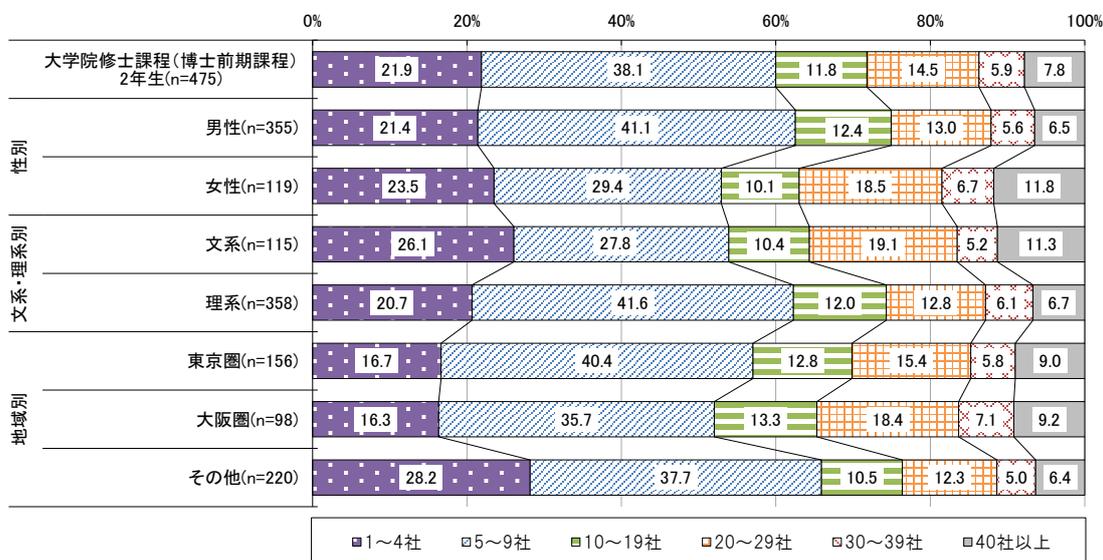
大学4年生について、何社にエントリーシートを提出したかをたずねたところ、「5~9社」に該当する者が30.9%となっている（図表4-3-8）。また、比較的提出数が多かった者についてみると、20社以上の者が39.8%、40社以上の者が9.6%となっている。属性別では、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、エントリーシート提出数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生についてみると、「5~9社」に該当する者は38.1%であり、20社以上の者は28.2%、40社以上の者は7.8%となっている（図表4-3-9）。属性別にみた場合、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、エントリーシート提出数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

図表 4-3-8 大学4年生、エントリーシートの提出数



図表 4-3-9 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、エントリーシートの提出数



(4) 採用面接の実施状況

①採用面接実施時期の月別・累積割合

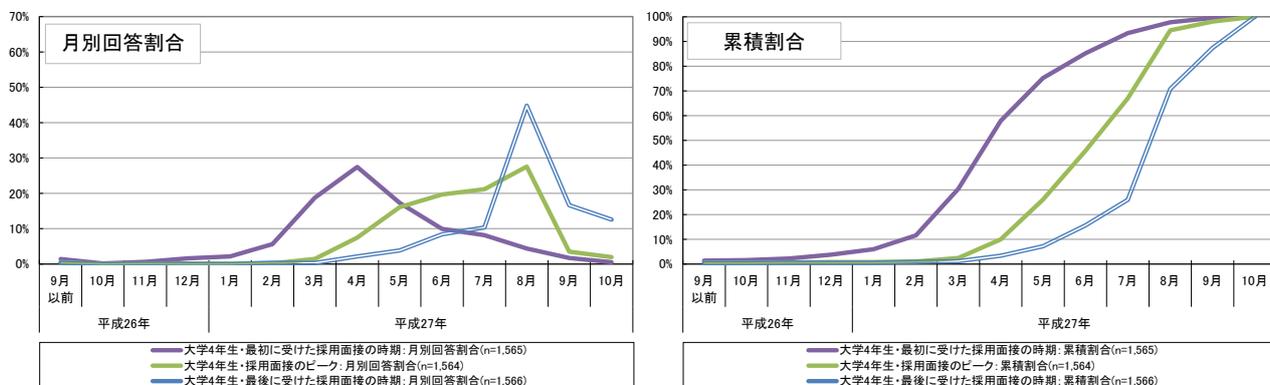
採用面接の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」をそれぞれたずねた²⁵。

「最初に受けた採用面接の時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年4月」が約3割（各27.5%、30.6%）となっており、「平成27年3月」「平成27年5月」の回答と合わせると、6割以上がこの時期に最初の採用面接を受けている状況にある（図表4-4-1、図表4-4-2）。また、累積割合をみると、それぞれ半数以上（各57.9%、53.5%）が平成27年4月以前に最初の採用面接を受けたと回答している。

「採用面接のピーク」について、大学4年生に関しては「平成27年8月」が27.6%で最も割合が高く、次いで「平成27年7月」「平成27年6月」について約2割の回答がみられる。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年8月」と「平成27年6月」の回答が同程度となっており、「平成27年5月」の回答も約2割となっている。なお、累積割合をみると、大学4年生の66.9%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生の72.1%が、平成27年7月以前と回答している。

「最後に受けた採用面接の時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年8月」が4割以上（各44.8%、47.3%）となっている。なお、大学4年生については、次いで「平成27年9月」の回答割合が高くなっている。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年6月」の回答が14.7%と若干高くなっている。

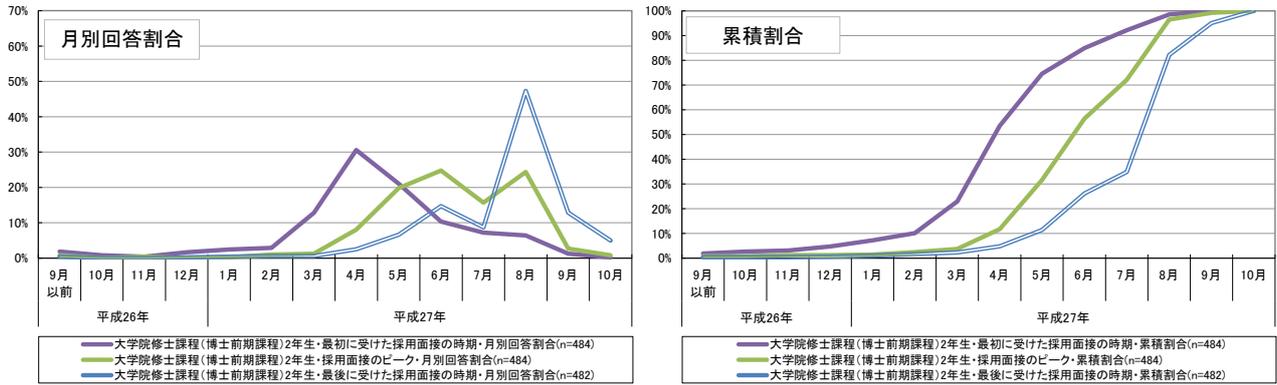
図表 4-4-1 大学4年生、採用面接の実施時期



最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.4%	0.2%	0.6%	1.6%	2.2%	5.6%	18.8%	27.5%	17.3%	10.0%	8.2%	4.4%	1.7%	0.5%
累積割合	1.4%	1.6%	2.2%	3.8%	6.0%	11.6%	30.4%	57.9%	75.2%	85.2%	93.4%	97.8%	99.5%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	1.5%	7.5%	16.1%	19.7%	21.2%	27.6%	3.5%	2.0%
累積割合	0.5%	0.5%	0.7%	0.8%	0.8%	1.0%	2.5%	10.0%	26.1%	45.8%	66.9%	94.5%	98.0%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%	2.2%	3.8%	8.4%	10.3%	44.8%	16.7%	12.6%
累積割合	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%	1.2%	3.4%	7.2%	15.6%	26.0%	70.8%	87.4%	100.0%

²⁵ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生：49件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：23件）はここでは集計の対象外とした。

図表 4-4-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、採用面接の実施時期



最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.9%	0.8%	0.4%	1.7%	2.5%	2.9%	12.8%	30.6%	21.1%	10.3%	7.2%	6.4%	1.2%	0.2%
累積割合	1.9%	2.7%	3.1%	4.8%	7.2%	10.1%	22.9%	53.5%	74.6%	84.9%	92.1%	98.6%	99.8%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%	1.0%	1.2%	8.1%	19.8%	24.8%	15.7%	24.4%	2.7%	0.8%
累積割合	0.8%	0.8%	1.2%	1.2%	1.4%	2.5%	3.7%	11.8%	31.6%	56.4%	72.1%	96.5%	99.2%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%	2.5%	6.6%	14.7%	8.7%	47.3%	12.9%	5.0%
累積割合	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	1.0%	1.7%	2.3%	4.8%	11.4%	26.1%	34.9%	82.2%	95.0%	100.0%

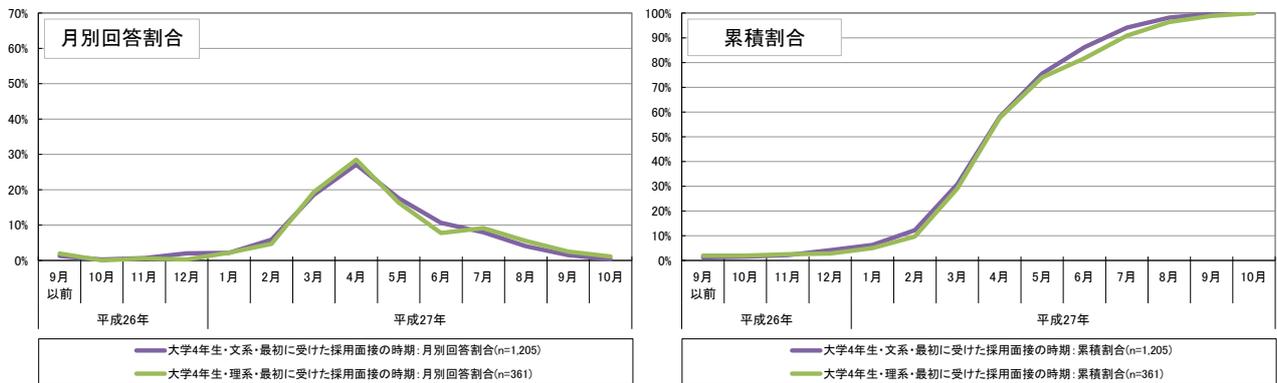
②文系・理系別、採用面接の実施時期

採用面接の時期について文系・理系別にみると、大学4年生の文系の学生について、「採用面接のピーク」は「平成27年8月」の回答割合が約3割と最も高く、次いで、「平成27年7月」「平成27年6月」の回答が2割前後となっている（図表4-4-3）。

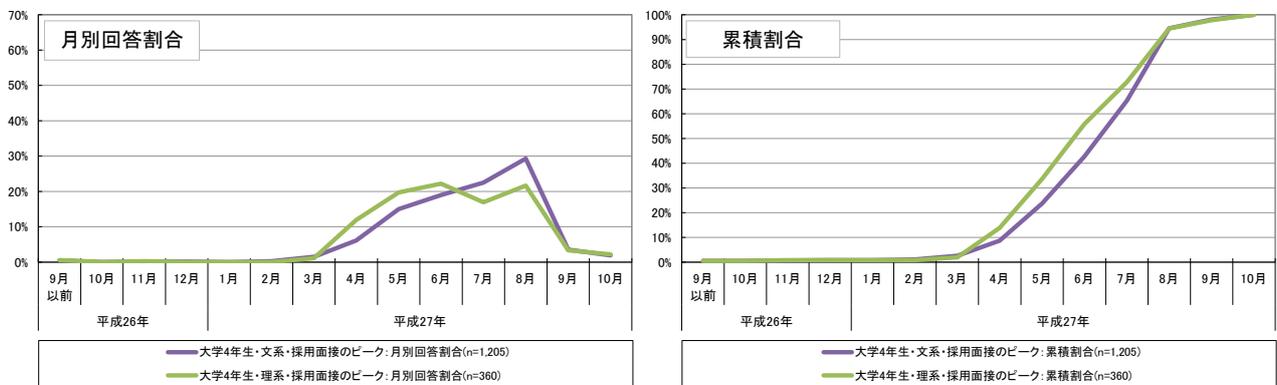
他方で、理系の学生については、「採用面接のピーク」について、「平成27年5月」～「平成27年8月」の時期にそれぞれ2割前後の回答がみられる。また、「平成27年4月」の回答も1割以上となっており、文系の学生の回答と比べて高くなっている。

図表 4-4-3 大学4年生の文系・理系別、採用面接の実施時期

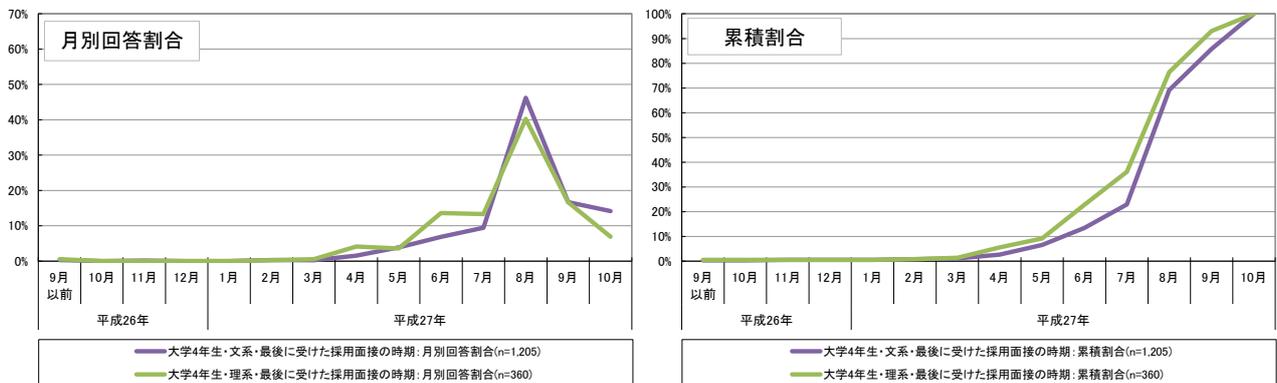
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

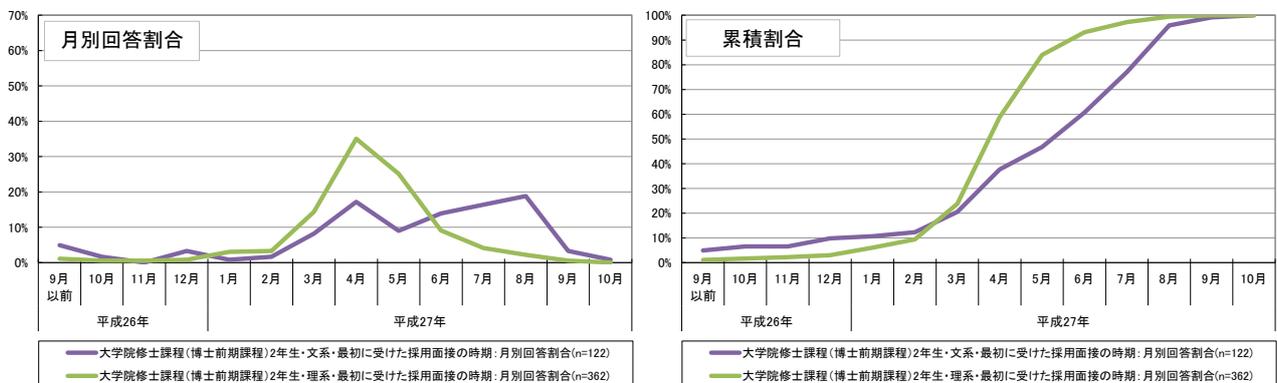


大学院修士課程（博士前期課程）2年生の採用面接の時期について文系・理系別にみると、文系の学生については、「最初に受けた採用面接の時期」に関し、「平成27年4月」と「平成27年8月」との回答が同程度となっている（図表4-4-4）。「採用面接のピーク」に関しては、「平成27年8月」の回答割合が約4割と高く、次いで「平成27年7月」が2割以上となっている。

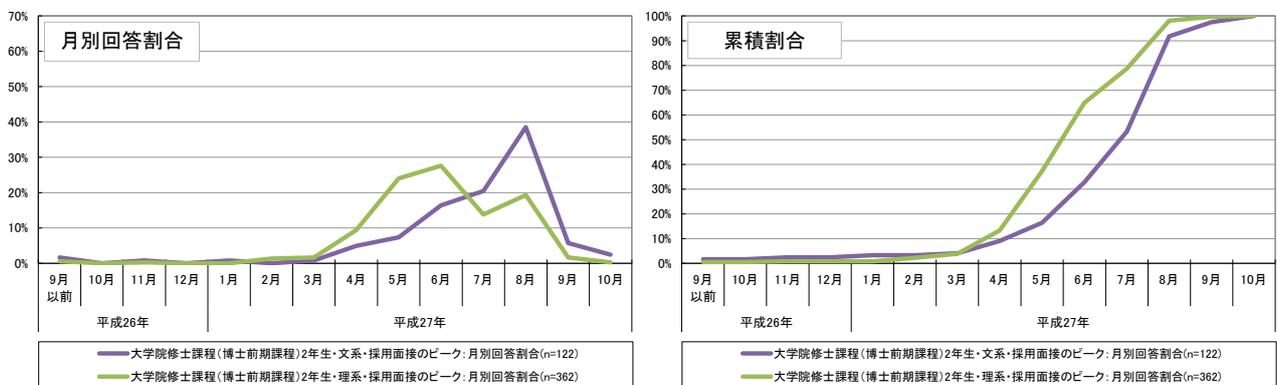
理系の学生については、「最初に受けた採用面接の時期」について「平成27年4月」が3割以上と最も割合が高くなっており、文系の学生との違いが見られる。「採用面接のピーク」に関しても、理系の学生では「平成27年5月」「平成26年6月」の回答割合が高くなっており、この時期にピークを迎えたとの回答が合わせて5割以上となっている。

図表 4-4-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、採用面接の実施時期

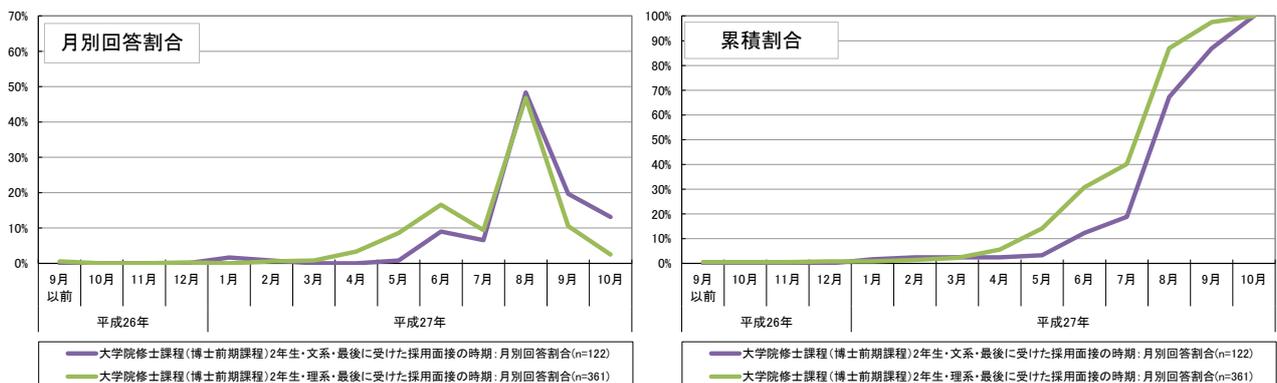
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



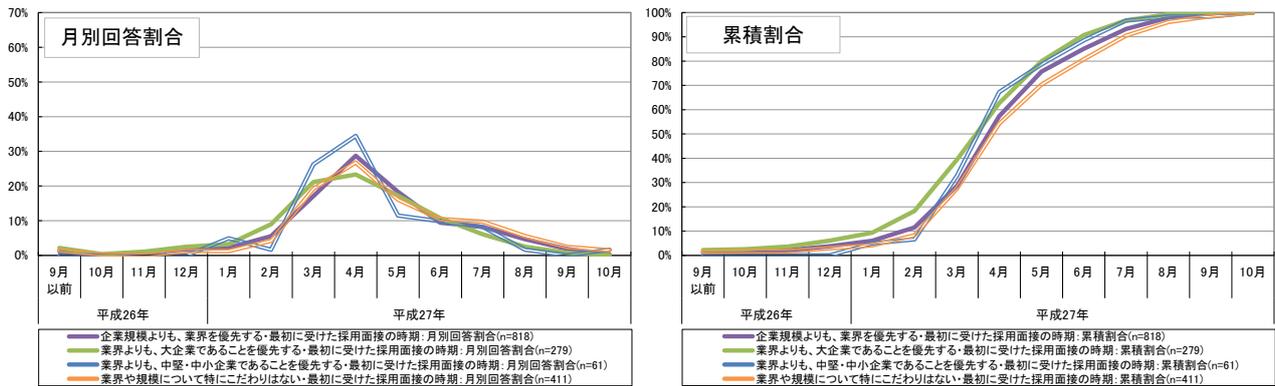
<最後に受けた採用面接の時期>



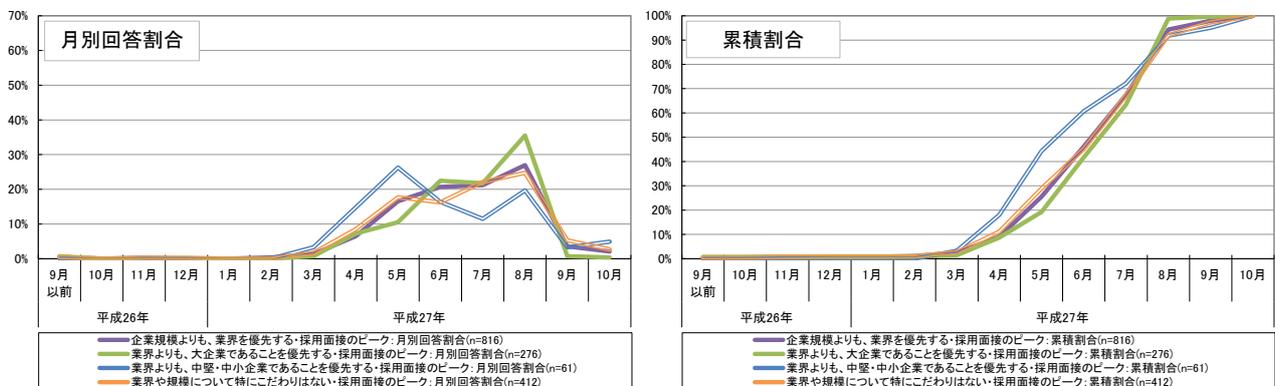
③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、採用面接の実施時期

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、採用面接の時期についてみると²⁶、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、「最初に受けた採用面接の時期」がより早い時期であった者の割合が比較的高い一方で、「採用面接のピーク」ならびに「最後に受けた採用面接の時期」が「平成27年8月」により集中している状況にあることがうかがえる（図表4-4-5）。また、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、「採用面接のピーク」について「平成27年5月」であったとの回答割合が最も高く、他の者との違いが見られる。

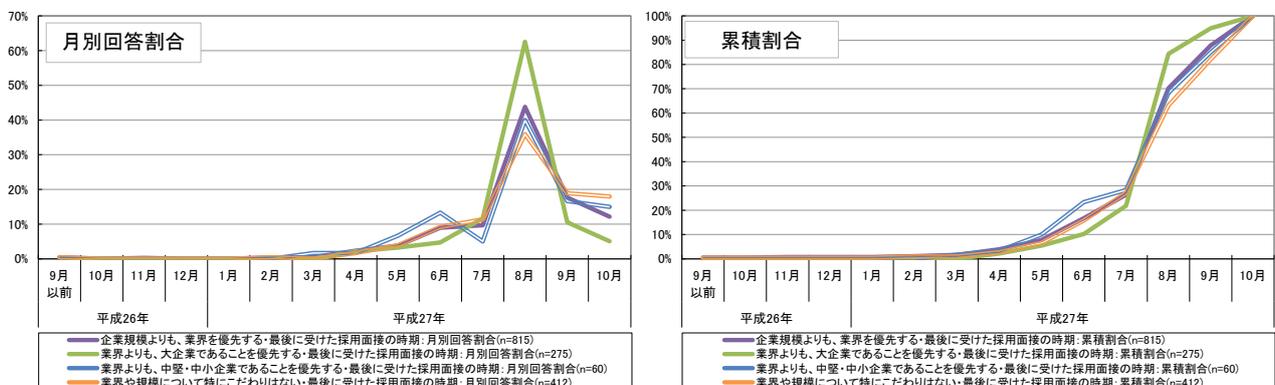
図表4-4-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、採用面接の実施時期
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

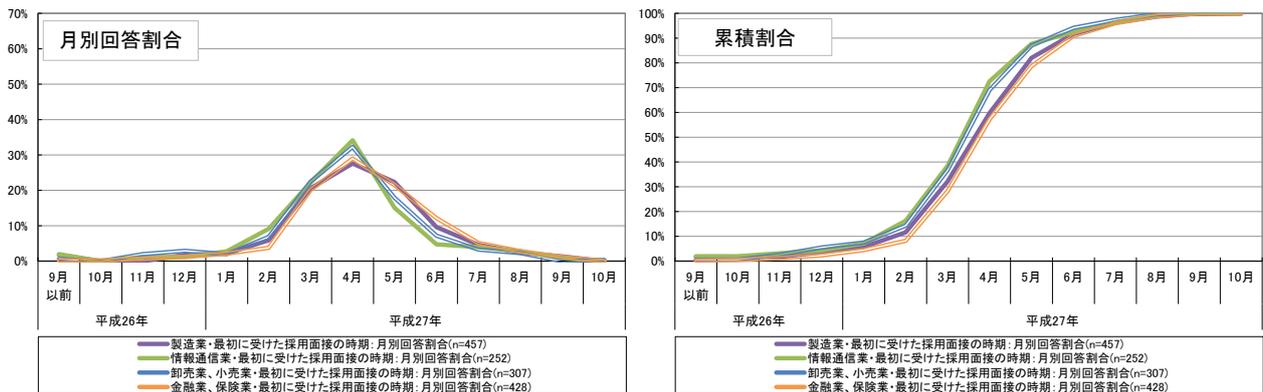


²⁶ 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

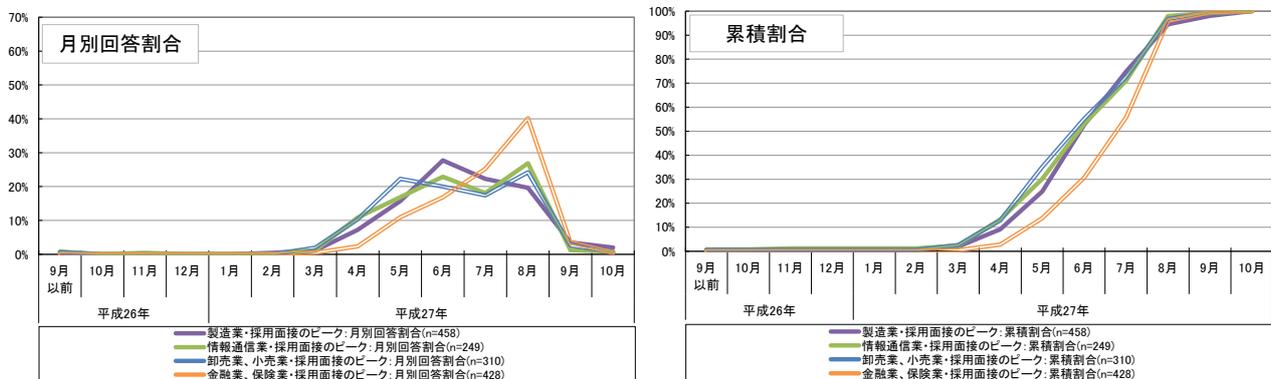
④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、採用面接の実施時期

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、採用面接の時期についてみると²⁷、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、「情報通信業」や「卸売業、小売業」を志望していた（希望している）者では「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」ともにより早い時期であった者の割合が高い傾向があり、他方で、「金融業、保険業」を志望していた（希望している）者については、それぞれより遅い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-4-6）。

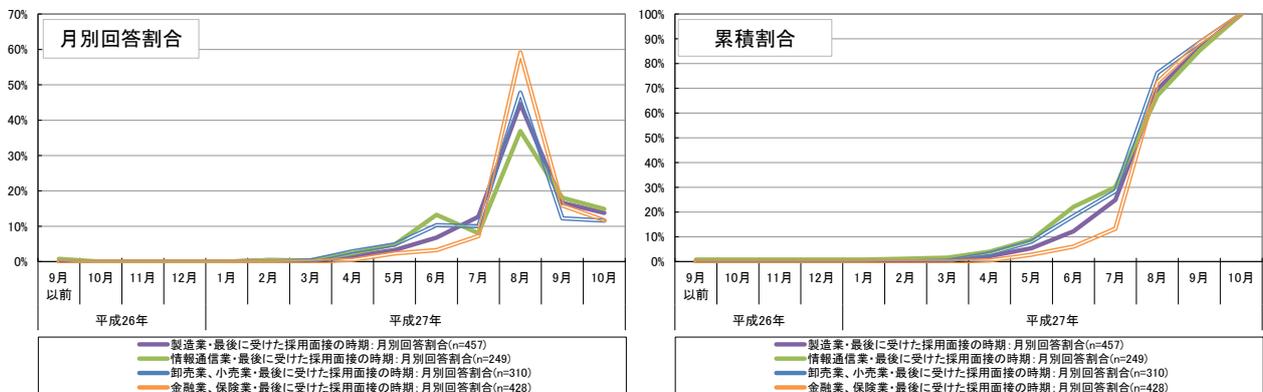
図表 4-4-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、採用面接の実施時期
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>



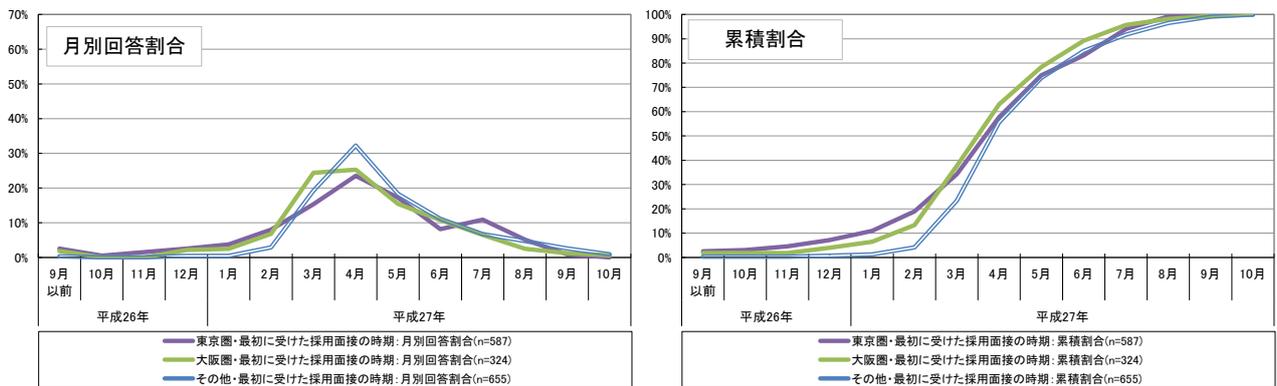
²⁷ 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、採用面接の実施時期

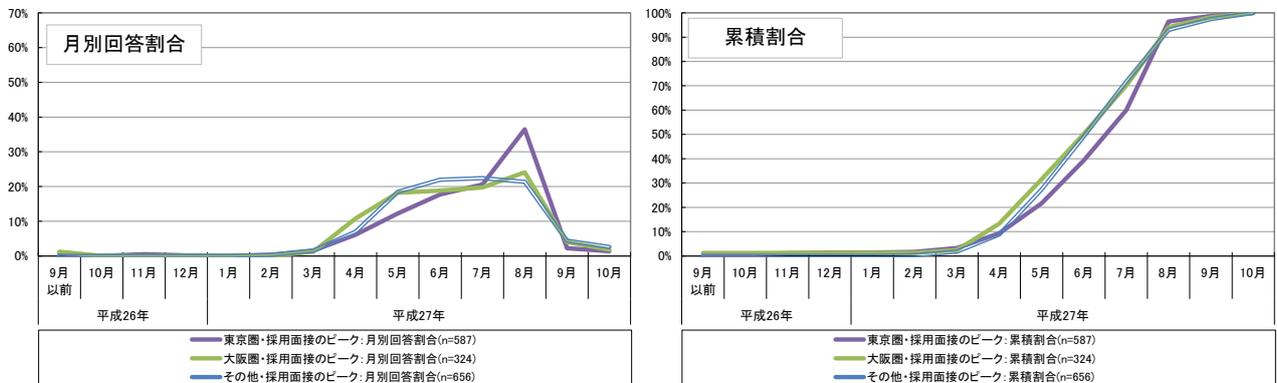
大学4年生に関して、大学の所在地域別に採用面接の時期についてみると、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが、「その他」の地域の学生と比較して、「最初に受けた採用面接の時期」がより早い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-4-7）。

他方で、「採用面接のピーク」については、「東京圏」の学生において特に「平成27年8月」の回答割合が高くなっており、「大阪圏」「その他」の地域の学生に比べてより遅い時期であったと回答した者の割合が高くなっている。

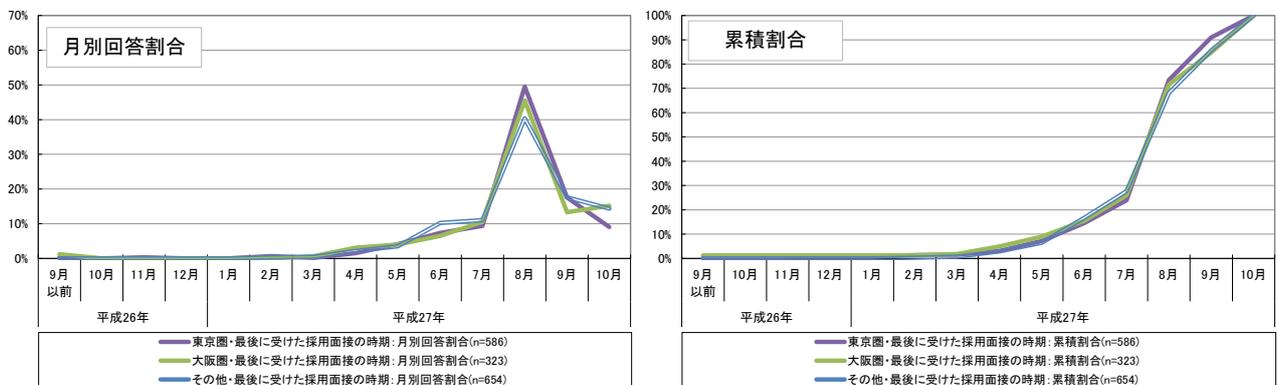
図表4-4-7 大学4年生の大学の所在地域別、採用面接の実施時期
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

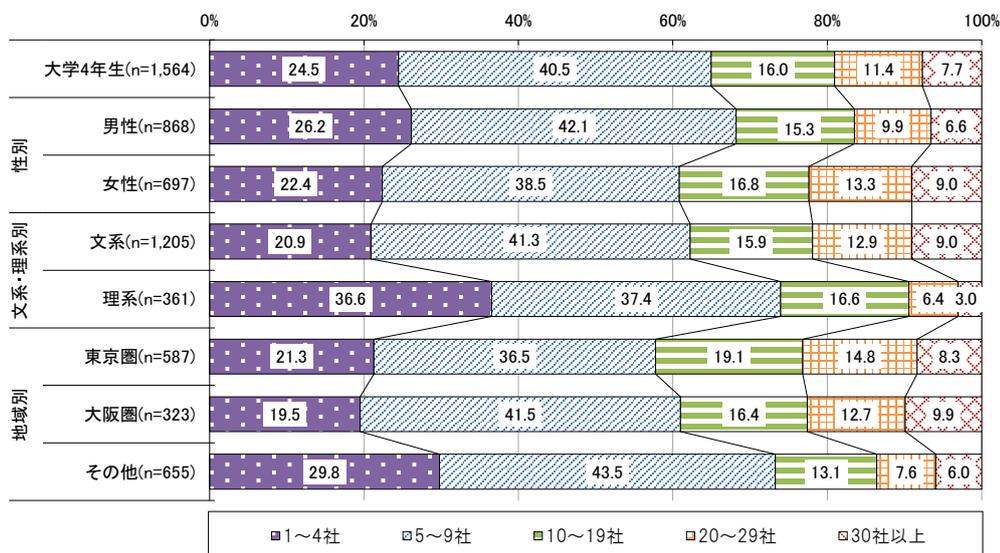


⑥採用面接を受けた企業数

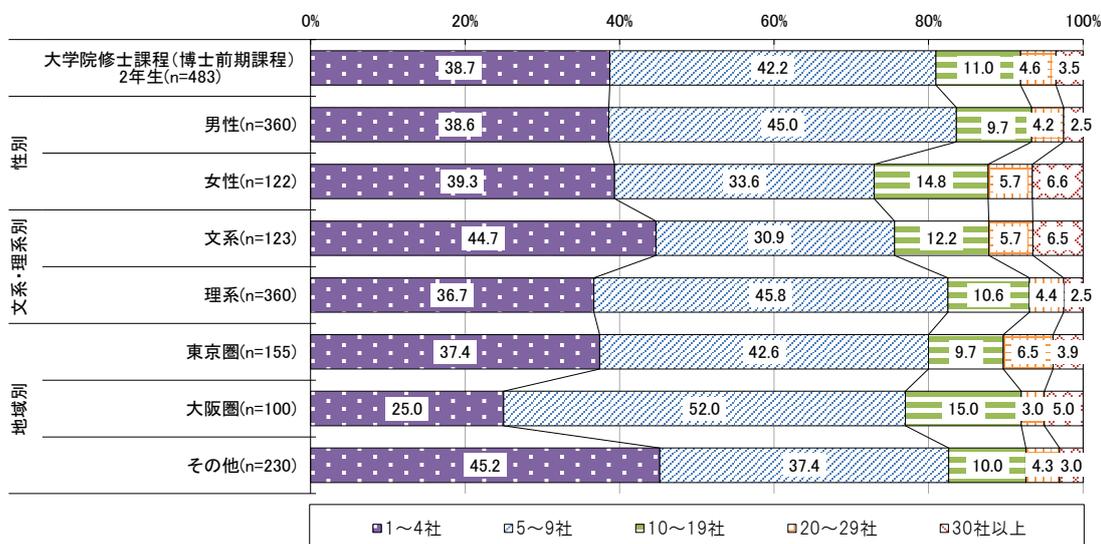
採用面接の実施状況として、合計で何社の企業の採用面接を受けたかをたずねたところ、大学4年生について、「5～9社」に該当する者が40.5%となっている（図表4-4-8）。また、20社以上の者は19.1%となっている。属性別にみると、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、採用面接を受けた企業数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生についてみると、「1～4社」「5～9社」に該当する者がそれぞれ38.7%、42.2%となっており、20社以上の者は8.1%となっている（図表4-4-9）。属性別にみると、10社以上と回答した割合について、男性よりも女性のほうが、また、理系よりも文系のほうが、割合が高くなっている。なお、文系の学生については、「1～4社」に該当する者の割合も比較的高く、分散がより大きいことがうかがえる。

図表 4-4-8 大学4年生、採用面接を受けた企業数



図表 4-4-9 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、採用面接を受けた企業数



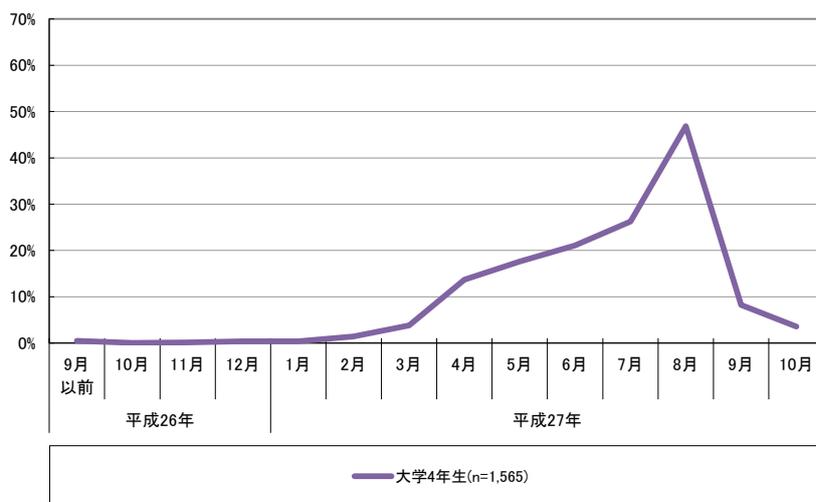
(5) 第1志望の企業の採用面接

① 第1志望の企業の採用面接時期

採用面接の実施時期に関して、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてたずねたところ、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年8月」の回答割合が最も高くなっている（各46.8%、46.1%）（図表4-5-1、図表4-5-2）。

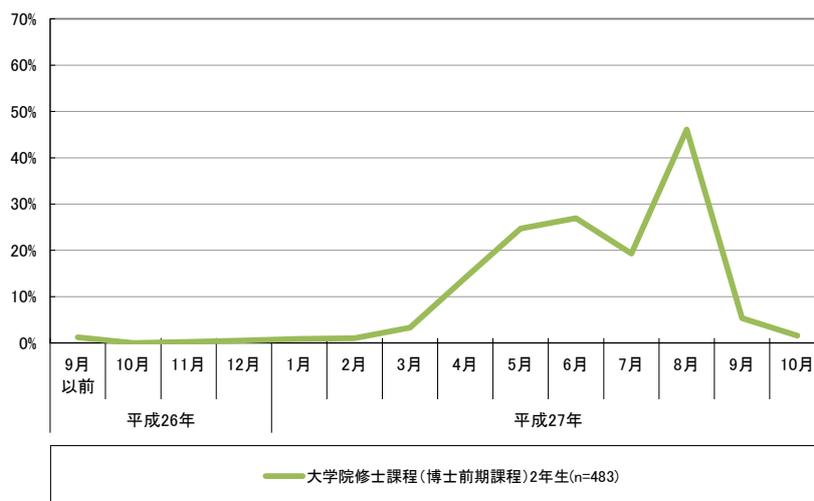
なお、大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、平成27年5月・6月の時期に行われたとの回答も比較的高くなっている。

図表 4-5-1 大学4年生、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.1%	0.1%	0.4%	0.4%	1.5%	3.8%	13.7%	17.6%	21.1%	26.2%	46.8%	8.2%	3.6%

図表 4-5-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



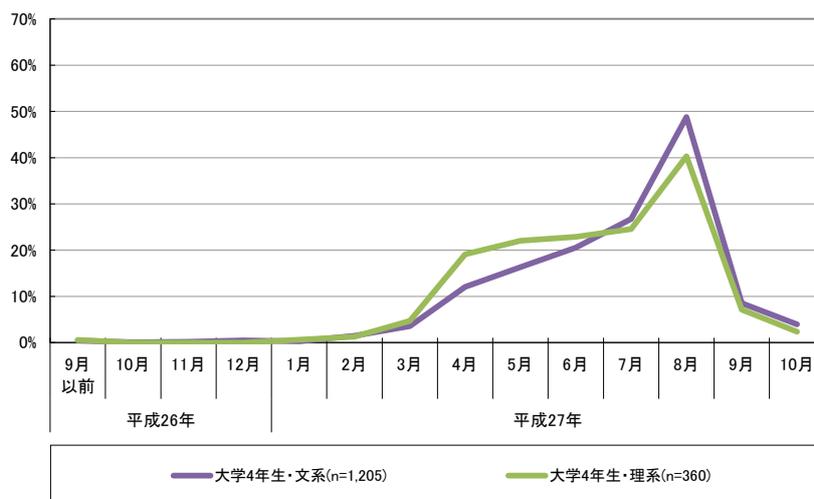
	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.2%	0.0%	0.2%	0.6%	0.9%	1.1%	3.3%	14.1%	24.7%	26.9%	19.3%	46.1%	5.3%	1.6%

②文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期

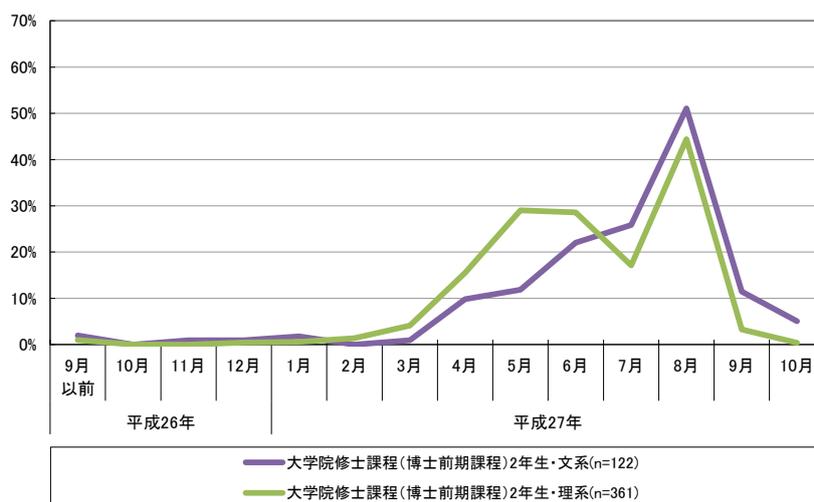
第1志望の企業の採用面接の時期について文系・理系別にみると、大学4年生について、「平成27年8月」の回答割合が最も高いという点は共通しているが、理系の学生の方が文系の学生に比べて早い時期に第1志望の企業の採用面接が実施されていたことがうかがえる（図表4-5-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生についても同様の傾向があることが見て取れ、理系の場合には平成27年5月・6月の時期を中心に、より早い段階で第1志望の企業の採用面接が行われていた割合が高いことが把握できる（図表4-5-4）。

図表 4-5-3 大学4年生の文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



図表 4-5-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

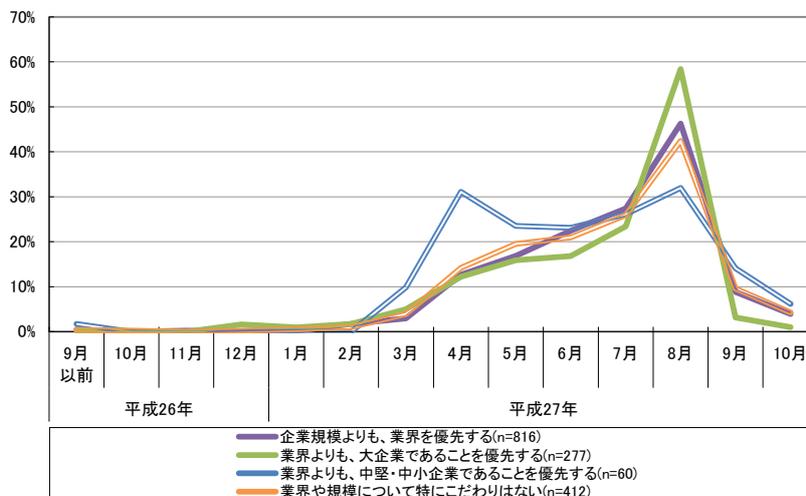


③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると²⁸、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、「平成27年4月」の回答割合が3割以上となっており、「平成27年8月」と同程度となっている（図表4-5-5）。

また、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、第1志望の企業の採用面接の時期について「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる。

図表 4-5-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

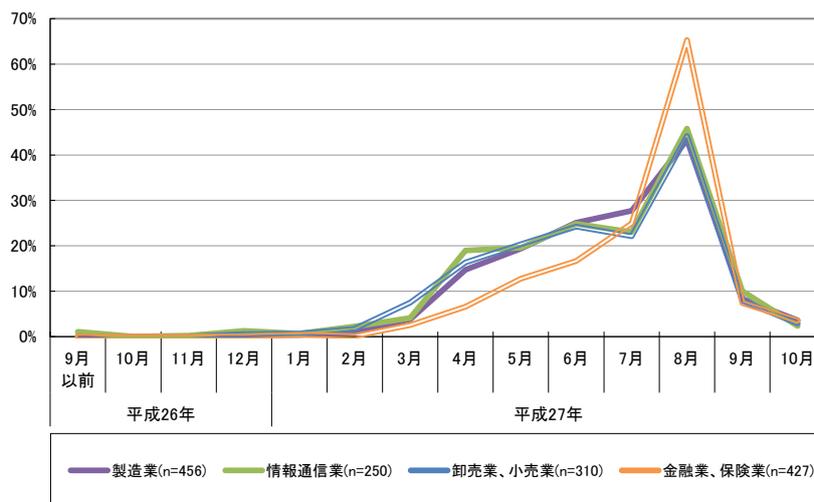


²⁸ 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると²⁹、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、特に「金融業、保険業」については「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる（図表4-5-6）。

図表 4-5-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

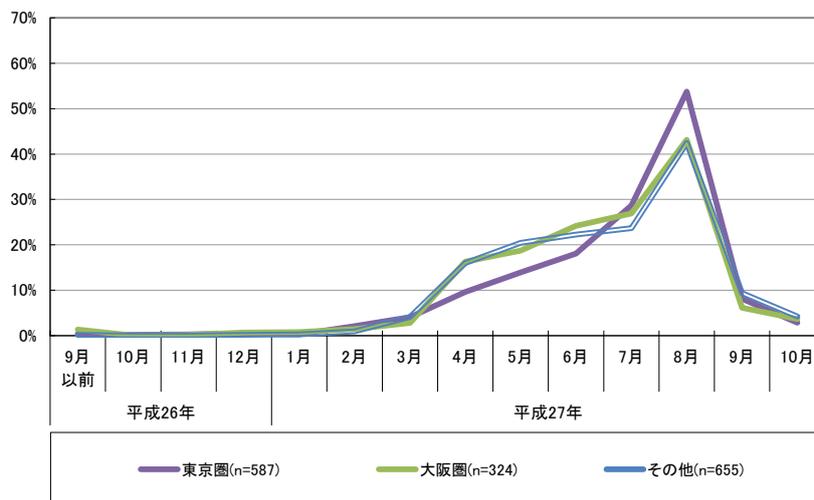


²⁹ 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、大学の所在地域別に第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると、特に「東京圏」の学生について、「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる（図表4-5-7）。

図表4-5-7 大学4年生の大学の所在地域別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



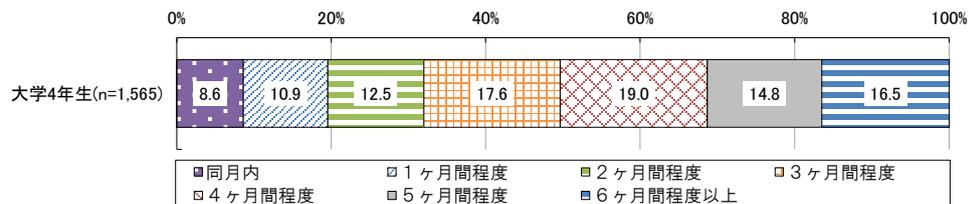
(6) 採用面接の実施期間

①最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

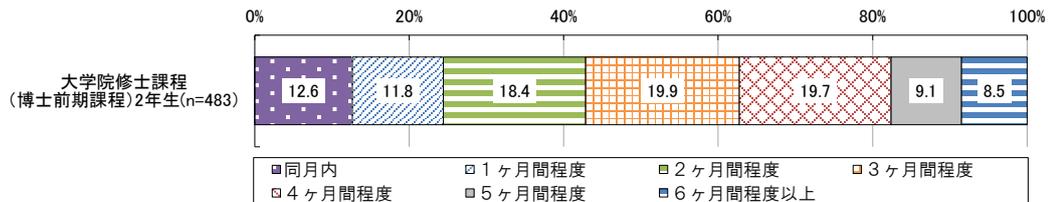
採用面接の時期・期間について、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について集計すると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「3ヶ月間程度³⁰」もしくは「4ヶ月間程度」の割合が高くなっている（図表4-6-1、図表4-6-2）。

なお、大学院修士課程（博士前期課程）2年生と比較して、大学4年生のほうが、期間が長い者の割合が高くなっている。

図表 4-6-1 大学4年生、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



図表 4-6-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



³⁰ ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

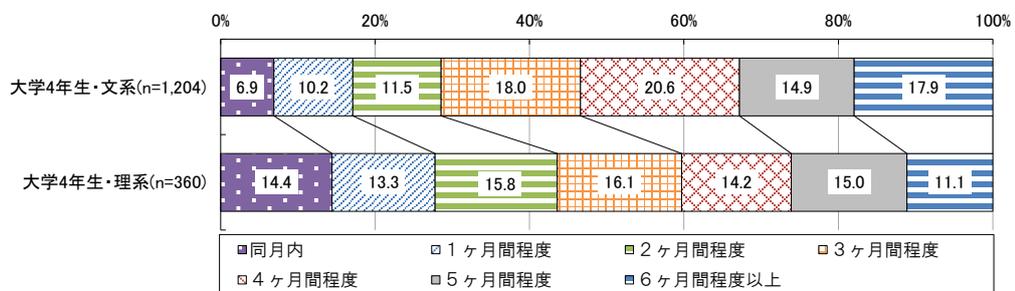
②文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について文系・理系別にみると、大学4年生については、理系の学生よりも文系の学生のほうが、期間が長い者の割合が高くなっている（図表 4-6-3）。

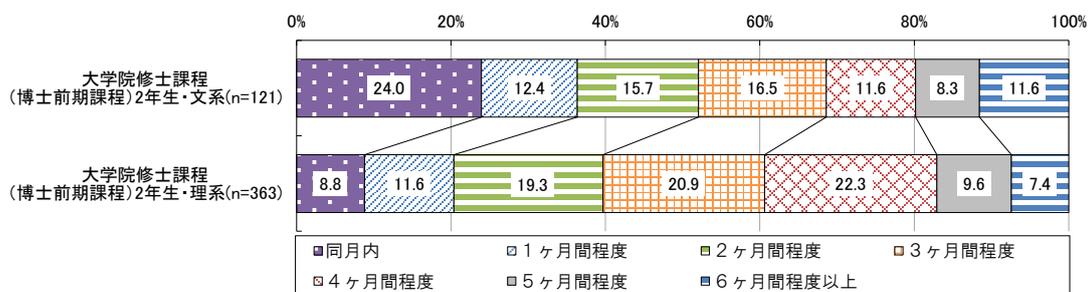
大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、理系の学生において「4ヶ月間程度³¹」の割合が最も高いのに対して、文系の学生では「同月内」の割合が最も高くなっており、状況に差異があることがわかる（図表 4-6-4）。

なお、これらの違いについては、図表 3-4-5、図表 3-4-7 で示した「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」との回答傾向の文系・理系別の違いとも対応関係にあることがうかがえる³²。

図表 4-6-3 大学4年生の文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



図表 4-6-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



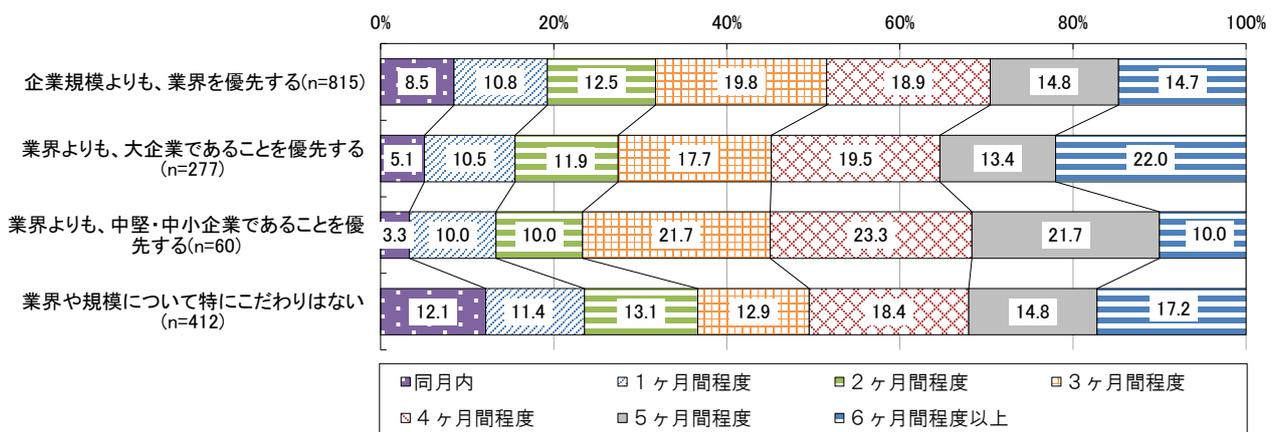
³¹ ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

³² このほか、図表等には示していないが、「最初に受けた採用面接の時期」と「最後に受けた採用面接の時期」の回答の組み合わせについて把握したところ、大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系の学生については、最初の採用面接・最後の採用面接ともに平成27年8月であった場合が最も多く、それ以外の者では、最初の採用面接を平成27年4月に受け、最後の面接を平成27年8月に受けたというパターンが最も多くなっていた。

③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると³³、「6ヶ月間程度以上³⁴」の割合は、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者で22.0%と、他の者と比較して高くなっている（図表4-6-5）。

図表4-6-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



³³ 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

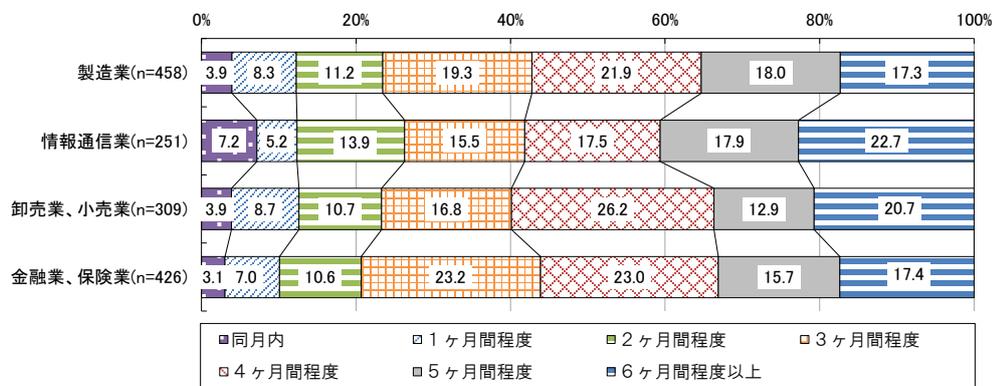
³⁴ ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると³⁵、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、「情報通信業」を志望していた（希望している）者では、「5ヶ月間程度³⁶」以上の期間であった者が40.6%と比較的割合が高くなっている（図表4-6-6）。

他方で、「情報通信業」を志望していた（希望している）者では、「同月内」の割合も高くなっており、傾向は一様ではないことがうかがえる。

図表 4-6-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



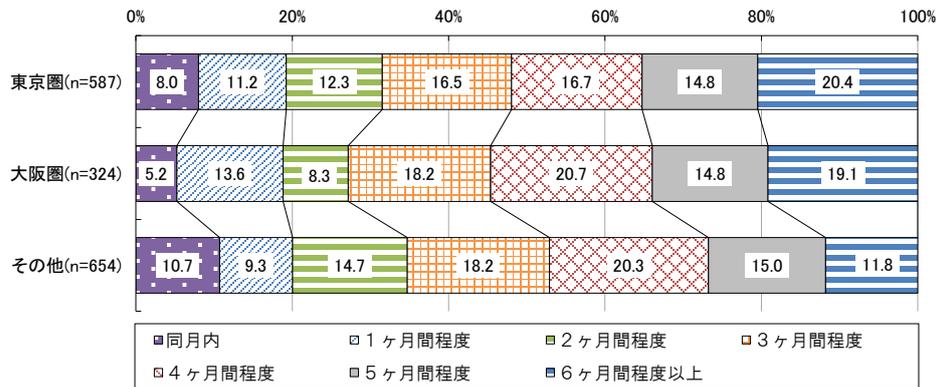
³⁵ 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

³⁶ ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、大学の所在地域別に「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると、「その他」の地域の学生に比べて、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが「6ヶ月間程度以上³⁷⁾」の割合が高くなっている（図表4-6-7）。

図表 4-6-7 大学4年生の大学の所在地域別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



³⁷⁾ ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。